

ESG開示からみる統合報告書のあり方

小野塚 恵 美
貝 沼 直 之 CMA

目 次

- | | |
|--|--|
| <p>1. はじめに</p> <p>2. 長期的な価値創造 (LTVC) のためのステークホルダーマネジメントと統合報告書</p> <p>3. ステークホルダーマネジメントの観点からの統合報告書におけるESG開示</p> | <p>4. ステークホルダーとのエンゲージメントを適切に表現することにより企業経営のあり方を投資家に提示できている好事例の紹介</p> <p>5. 結論と課題</p> <p>6. 結び</p> |
|--|--|

本稿では、企業による長期的株主価値増大のための、ステークホルダーマネジメントのツールの一つとして統合報告書を位置づけ、ESGの観点に絞っての内容とステークホルダーごとの「固有周期」（ここでは、投資ホライズン、人材開発、事業や製品、環境対策などに特有の期間・時間感覚をいう）とステークホルダー間のバランスを意識することを、開示にとどまらず企業経営のあり方として提言する。スチュワードシップ活動や統合報告書コンサルティングおよび統合報告作成実務に関する経験に基づき、できるだけ具体的な事例を集めて、検証していく。

1. はじめに

企業による長期的な価値創造 (LTVC: Long

Term Value Creation、短期利益を追求しないことや、ステークホルダーに配慮することなど、典型的にはBusiness Roundtable [2018] の意味



小野塚 恵美 (おのづか えみ)

カタリスト投資顧問取締役副社長COO。マネックスグループESG /サステナビリティ推進タスクフォースリーダー。ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントにてスチュワードシップ責任推進責任者としてESGリサーチ、企業との対話に従事。金融庁サステナブルファイナンス有識者会議委員。ジャパン・スチュワードシップ・イニシアティブ(JSI)運営委員会委員長。主な訳書に、『社会を変えるインパクト投資』(Vecchi,V.ほか著、2021年、同文館出版、共訳)。



貝沼 直之 (かいぬま なおゆき)

マネックスグループ執行役員CEO補佐。1988年第一生命入社、同社にて日本株ファンドマネジャー兼アナリスト、その後、JPモルガン証券にてセルサイド・アナリスト、ジョイフルにて取締役コーポレートガバナンス室長、ローソンにて理事執行役員IR室長、監査法人トーマツにてESG・統合報告アドバイザー担当ディレクターなどを経て、2019年マネックスグループ執行役員社長室長、2021年9月より現職。経済産業省「企業報告研究会」委員、経済産業省「伊藤レポート」メンバー、環境省「ESG検討会」委員などを歴任。